

道徳学習指導案

対象 第1学年

1 主題名 「自然に感動する心」 3—(2)

2 資料名 『オーロラ ―光のカーテン― 』（「あすを生きる1」日本文教出版）

3 主題設定の理由

(1) 主題について

自然への畏敬の念は、自然の中に身を置き自然界のリズムや自然との対話、美しさや崇高さを感じることから生まれる。つまり、人間と自然とのつながりを感じ取らせることによって豊かな心をはぐくむことになるのである。また、自然への感謝の念が深まるにつれ、身の回りの自然を見つめ直し、自然を保全しようとする心情や実践意欲が生じてくる。

本主題では、その自然の美しさや神秘さを感じ、自然に対する敬虔な心や人間の力を超えたものを深く感じるができる豊かな心情を育てることに重点を置く。

(2) 生徒の実態

都市化が進み、身の回りの自然が失われていく状況の中、生徒たちの自然とのかかわりも薄らいできている。そのため、自然の美しさやすばらしさを味わう経験が乏しく、自然の美しさを守ることが自分たちに直接かかわる問題として受け止めることができているのが現状である。

東北大震災以降、自然の恐怖について表面上は理解しているが、自然を見つめ直し、保全していこうという気持ちにはつながっていない。環境保護の活動に対しても「やったほうがよいからやるもの」としてとらえるのみで、その根底に自然を「崇高なもの」「身近なもの」と考えている様子はない。

豊かな心をもって生きていくために、美しいものや崇高なものに対して、深く感じる心をはぐくむことは、大切なことである。

(3) 資料について

筆者は、厳寒の中でオーロラを見て、強い衝撃と感動を受ける。オーロラが生き物のように心あるもののように思われ、コミュニケーションをとろうと夢中になる。涙が出て目じりに凍りつく。神秘的で美しいオーロラに対する筆者の驚き、感動への共感を通して、自然に対する畏敬の念を抱く指導に適した資料である。

4 本時の学習

(1) ねらい

自然について自分の経験を振り返りながら、自然の美しさや神秘さについて考え、自然に対する畏敬の念をはぐくむ。

(2) 指導過程

	学習活動と○主な発問	・予想される生徒の反応	●教師の働きかけ ○指導上の留意点
導入	<p>1. 自然について、感じたことを発表し合う。</p> <p>①「どんな自然現象を知っているか。」</p> <p>②「映像を見て、どう感じるか。」</p>	<p>・地震</p> <p>・津波</p> <p>・雪</p> <p>・虹</p> <p>・すごい。</p> <p>・不思議だ。</p> <p>・きれいだ。</p>	<p>●教師の働きかけ ○指導上の留意点</p> <p>●挙手、指名で発言させる。(T 1)</p> <p>●「オーロラ」の映像資料を提示する。(T 2)</p> <p>●挙手、指名で発言させる。(T 1)</p> <p>○視覚教材を用いて、資料に興味を持たせる。</p>
展開	<p>2. 資料「オーロラー光のカーテンー」を読み、考え、語り合う。</p> <p>①「筆者がオーロラは『厳寒の凍るような空気の中で見るもの』と言っているのは、どうしてだろうか。」</p> <p>②「筆者が驚きのあまり腰を抜かしそうになったのはどうしてだろうか。」</p> <p>③(中心発問)「オーロラとコミュニケーションをとろうと無我夢中になった筆者は、どのような気持ちだっただろうか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><小集団による語り合い活動></p> <p>1. ワークシートに自分の考えを記入する。</p> <p>2. 小集団による語り合いを行う。</p> <p>3. 語り合いの後、感想を記入する。</p> <p><学級全体で考えを共有する></p> <p>数人が自分の考えを発表し、学級全体で語り合う。</p> </div>	<p>・寒くても見る価値はある。</p> <p>・極限の状態の方が感動も大きいから。</p> <p>・想像以上に美しかったから。</p> <p>・怖いくらい美しかったから。</p> <p>・オーロラが生き物のよう に感じられた。</p> <p>・大きな存在感があった。</p> <p>・もっとオーロラを知りたい</p>	<p>●資料名を黒板に貼る。(T 2)</p> <p>●資料を朗読する。(T 1)</p> <p>●発問カードを掲示する。(T 2)</p> <p>●挙手、指名で発言させる。(T 1)</p> <p>○厳しい環境でも見たいという筆者の考えに注目させ、様々な考え方があることを知る。</p> <p>●発問カードを掲示する。(T 2)</p> <p>●挙手、指名で発言させる。(T 1)</p> <p>○筆者の感動の大きさや自然が人間に与える感動の大きさに気づかせる。</p> <p>●発問カードを掲示する。(T 2)</p> <p>○自然の崇高さにひかれる筆者に共感させ、自然に対する畏敬の念を育てる。</p> <p>●語り合いに加わり、内容を深める。(T 1・T 2)</p> <p>●生徒の意見を板書する。(T 1)</p>

<p>終末</p>	<p>3. 「自然の美しさや神秘さ」について考える。 ○「自然の美しさや神秘さを感じた体験には、どのようなことがあるか。」</p> <p>4. 授業者の説話を聞く。</p>	<p>●発問カードを掲示する。(T 2) ○自分の体験から、自然の美しさや崇高さを感じ取らせる。 〔補助発問〕「身の回りにはどんな自然があるだろうか。」 〔補助発問〕「遠足の時に感じたことはないだろうか。」</p> <p>●授業者の「自然体験」についての説話でまとめ、ワークシートを回収する。(T 1)</p>
-----------	--	---

(3) 評価の観点

- ・自然の美しさや神秘さについて考え、人間の力を超えたものとしてとらえることができたか。
- ・自然に対して自分の経験を振り返り、美しさや崇高さを感じる事ができたか。

5 板書計画

<p>○自然の美しさや神秘さを 感じた経験を振り返る。</p>	<p>・オーロラが生き物のように感じられた。 ・大きな存在感を感じた。</p>	<p>○オーロラとコミュニケーション をとろうと無我夢中になる。</p>	<p>○息を飲み、驚きのあまり 腰を抜かしそうになる。</p>	<p>○厳寒の凍るような空気の中 で見えるもの。</p>	<p>〔オーロラに対する 筆者の気持ち〕</p>	<p>オーロラ — 光のカーテン —</p>
-------------------------------------	---	--	-------------------------------------	----------------------------------	------------------------------	------------------------